

赤目中学校区

小中一貫教育グランドデザイン

中学校区の教育目標

一人ひとりが生き生きと輝く児童・生徒の育成

めざす子ども像

なかまと繋がりがあって、学ぶ楽しさや自己有用感を育むことができる児童・生徒

小中一貫教育の目標

「学力の向上」「学校生活への適応」「豊かな人間性と社会性の育成」
～小中双方の良い点を取り入れて「ギャップ」を「ステップ」に変える～

赤目中学校区 9年間の7つの学び

① 確かな学力の向上

【めざす子どもの姿】
意欲的・主体的に学習に取り組む子ども
【観点】
・学ぶ楽しさを実感できる授業作り・学んだことを活用できる指導方法・「めあて」と「振り返り」のあり方
【小1～3年】・繰り返しの学習を重視し、基礎・基本を身につける。
【小4～6年】基礎・基本の活用力、論理的思考力を伸ばす。
【中学】主体的な学習で問題解決力を伸ばす。

② 確かな体力の向上

【めざす子どもの姿】運動の楽しさを知り、なかまと共に意欲的に運動できる子ども
【観点】コアコア体操をはじめとする、体幹や体のコアを鍛えるトレーニングの推進。
・各校の弱み克服に繋がる運動の推進。
【小1～3年】各種の運動に進んで取り組み、基本的な動きを身につける。
【小4～6年】各種の運動の特性に応じた基本的な技能を身につけ、仲間と楽しんで運動できる。
【中学】生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育て体力の向上を図る。

③ 人間関係力の向上

【めざす子ども像】基本的な生活習慣を身につけ、児童・生徒どうしや周りとのつながりを大切にしている子ども
【小1～3年】・学級活動において気持ちよい朝のあいさつ運動を進める。
【小4～6年】児童会活動を中心としたあいさつ運動や全校集会で呼びかける。
【中学】生徒会や、部活動での自主的活動において、あいさつ運動やボランティア活動など学校生活を向上させる取組を進める。

④ いじめの防止と不登校問題の解消

【めざす子ども像】いじめを許さず、なかまと高め合う子ども
【小1～3年】学級活動の中で、思いを出し合え、聞き合えることができる。
【小4～6年】児童会活動の中で、なかまの思いや痛みをわかり、認め合い話し合う活動を通じたなかまづくりを進める。
【中学】学年集会(なかま集会)を通し、いじめを許さないなかまづくりをし、より高め合う集団への討議、話し合いを進める。

⑤ ふるさとを愛する心の醸成

【めざす子ども像】ふるさと名張を理解し、誇りや愛着をもち、ふるさとを語るができる子ども
【小1・2年】名張の言葉や場所、伝統行事、食べ物等に気付いたり、知ったりする。
【小3・4年】名張の自然や暮らしを維持、改善してきた地域の人々の努力について知る。<3年赤目四十八滝>
【小5・6年】名張の自然や地域性を生かした産業、また名張の文化や歴史を学ぶことで郷土に誇りと愛着をもち。
【中学】名張の歴史や自然、誰もが住みよいまちづくりについて理解を深め、学ぶことや働くことの意義を知る。

⑥ 英語力の向上

【めざす子ども像】外国語になれ親しみ、英語でコミュニケーションをとろうとする子ども
【小3・4年】「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて、外国語に慣れ親しむ。
【小5・6年】外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を身につける。
【中学】外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につける。

⑦ 人権教育の推進

【めざす子ども像】部落差別をはじめあらゆる差別の現実には深く学び、差別を許さない子ども
【小1～3年】・身近な生活にあるおかしなことに気づき、友だちの思いを聴いたり、自分の思いを話したりできる。<3年 児童館見学>
【小4～6年】部落差別や身近な生活にある差別の不合理さを自分たちの問題として捉え、差別をなくしていこうと行動できる。
【中学】差別や不合理を科学的に認識し、差別をなくす実践力、反差別の行動を身につける。

箕曲小学校

自ら学び、人間性豊かな、たくましい 箕曲の子



錦生赤目小学校

お互いの人権を認め合い、主体的に考え行動する心豊かな子の育成



百合が丘小学校

あかるく なかよく たくましく



赤目中学校

人間性豊かで、たくましい生徒の育成



中学校区共通の課題

- 不登校やいじめ、低学力などの課題がある。
- 時間やルールを守るなどの基本的な生活習慣や学習規律が身につけていない。
- 自尊心が低かったり不安を抱えていたりする。
- 保護者間・地域内でのつながりが弱まっている傾向が見られる。
- 積極性や表現力に課題が見られる。

【小中一貫教育推進の基本方針】

- ①9年間の一貫した系統性・連続性のある指導を行うことにより、確かな学力・体力等を向上させるとともに、様々な課題の未然防止、早期発見、早期対応に努め、いじめの防止や不登校問題の解消をめざす(小学校から中学校への円滑な接続をめざす)
- ②児童・生徒間、保護者、地域住民等との交流や体験学習を通して、豊かな人間性や社会性を育成する
- ③名張の人、自然、歴史、文化等の良さを知り、ふるさとを愛する心を醸成し、持続可能な社会づくりに貢献する人材を育成する

～お互いを知り、育み、確認し合う～

小中児童生徒	職員・地域
<p>【2学期】 ○部活動新聞の作成・掲示(中→小) ○特別支援教育「もみじのつどい」 ○音楽交流授業(小→中)<小5と中3との交流> ○部落問題を考える小学生の集い ○児童会と生徒会とのあいさつ運動</p> <p>【3学期】 ○出前授業(中→小) ○赤中入学説明会(小→中) ・部活見学 ・中2合唱披露 ○中学校便りの6年生への配布(中→小6)</p> <p>【その他】 ○吹奏楽部の演奏(中→各地域)</p>	<p>【1学期】 ○6年生担任による授業参観と情報交換(小→中) ○第1回小中一貫教育推進委員会 ○第1回人権教育推進協議会</p> <p>【夏季休業中】 ○赤目中学校区人権・同和教育研修会 ○教育相談 ケース会議合同研修会</p> <p>【2学期】 ○第2回人権教育推進協議会 ○英語教育の参観と交流(小→中)</p> <p>【3学期】 ○学力向上実践交流会 ○第3回人権教育推進協議会 ○第2回小中一貫教育推進委員会 ○新入生の授業参観・情報交換(中→小6) ○校区小中学校人権同和教育通信「あゆみにあ」の発行</p> <p>【その他】 ○スクールカウンセラーの活用 ○赤目中学校区校長会 ○情報交換会(各担当者会議で)</p>

保護者・地域との連携・協働 ～コミュニティ・スクールを基盤として～

- ◆各学校運営協議会において小中一貫教育への取組について協議し、保護者・地域との連携・協働した取組を実施する等、コミュニティ・スクールを基盤として小中一貫教育を推進する。
- ◆小中一貫教育について保護者・地域へ積極的に発信する。